

令和6年度 神戸市立六甲アイランド小学校 学校評価報告書

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿		
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり ともに創る みんなの学校		
学校づくりの目標		子供たちが自身の成長を実感できる学校を目指して				
内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案	
【教育目標】 心豊かに たくましく生きる 六アイっ子						
育てたい子供の姿	思いやりのある子供	挨拶の励行	3	・委員会活動等で挨拶運動を行い、啓発活動を行った。 ・教職員への挨拶や子供同士の挨拶はますますだが、来校者や地域での挨拶は十分とは言えない。	・保護者アンケート、児童アンケート共に挨拶や自己肯定感に関する項目の評価は高い。よくできていると思う。 ・「昔遊びの会」で1年生と活動したが子供たちの姿が素晴らしいと感じた。 ・自己評価では、来校者等に挨拶が十分でないといわれているが、できていると感じる。	・子供たちに「めあて」をもたせるようにする。 ・教師の率先垂範や様々な場で挨拶について講話や指導を行うことを継続する。 ・挨拶についての目指すべき六甲アイランド小の子供像を教職員で共有する。
		異学年交流の推進	3	・1・6交流で遊ぶ中で、最高学年の自覚を促す。 ・自然学校について5年生が4年生に伝える等 ・今年度は、ペア学年以外の学年とも交流を行うことができた。	・自己評価では、来校者等に挨拶が十分でないといわれているが、できていると感じる。	・交流内容を更に広げていけるよう担当者を中心に検討を進めていく。
		温かくつながる集団づくり	3	・朝の会で友達のよい行いを発表したり、感謝を述べたりすることが効果的だった。 ・係活動を活発に行い、協力する機会を確保し、成功体験を積み重ねることができた。	・地域行事に参加したり、地域と交流する機会を多く作ることが知っている人の輪が広がれば挨拶ができるのではないだろうか。	・協力しなればうまくいかない場を意図的、積極的に設けていく。 ・様々な学習を通して、多様性を知り、受け止める力を育てていく。
	自ら学ぶとする子供	協働的な学びの充実	3	・ペアトークを全員学習の前に行うことで、子供たちに自信をもたせるようにした。 ・ペアトークでは、ペアによって話し合いの質の差が大きい。 ・小集団での学習では、互いの考えやアイデアを交流できたり、互いの意見を聞き、折り合いを付けながら進めたりする姿が見られた。半面、発言力のある子の意見に引っ張られる傾向も見られた。	・ICTを使った発表の授業を参観したが印象的で子供の想像力を高められていると思った。 ・ICTについては教師の年齢で指導力に差があるのではないかと。若い先生の方がむしろ使いこなせているのではないかと。先生方のICTのスキルが子供の活用力の格差につながるのではあれば、方策を考えなければならない。 ・地域にはICTのスキルが高い人が多いと思う。先生方のICTのスキルに差があるのであればその教育力を活用したり補助に入ることも考えられる。 ・自分学習への取組は個人差が大きいのではないかと。子供も保護者も趣旨を理解できるよう学校の動きかけが必要ではないか。	・協働的な学びの人数を、子供たちの実態や取組む課題に合わせて、柔軟に決めるようにする。 ・自分の考えもつということ大切にしていこう。 ・協働的な学びの時間をしっかりと授業の中に位置付ける。 ・協働的な学びに明確な目的をもたせる。
		ICT(学習用パソコン)の活用推進	4	・SKYMENUの発表ノート機能を使ったプレゼン活動は効果的だった。文章を書くことが苦手な子も、画像があれば分かりやすく説明できた。 ・SKYMENUは、自分が作った作品を簡単に記録することができるため、創作活動が活発になった。 ・学年によっては、パソコンの授業での活用が十分できなかった。	・ICTについては教師の年齢で指導力に差があるのではないかと。若い先生の方がむしろ使いこなせているのではないかと。先生方のICTのスキルが子供の活用力の格差につながるのではあれば、方策を考えなければならない。 ・地域にはICTのスキルが高い人が多いと思う。先生方のICTのスキルに差があるのであればその教育力を活用したり補助に入ることも考えられる。 ・自分学習への取組は個人差が大きいのではないかと。子供も保護者も趣旨を理解できるよう学校の動きかけが必要ではないか。	・協働的な学びの人数を、子供たちの実態や取組む課題に合わせて、柔軟に決めるようにする。 ・自分の考えもつということ大切にしていこう。 ・協働的な学びの時間をしっかりと授業の中に位置付ける。 ・協働的な学びに明確な目的をもたせる。
		家庭学習(じぶん学習)の推進	3	・自主学習(じぶん学習)のテンプレート(型)をいくつか提示することでスムーズに取り組むことができた。 ・じぶん学習は高学年を中心に浸透してきている。 ・友達の取組を紹介したりする等、子供たちの意欲を高めた。 ・ドリル的な学習が苦手な子は自主学習に楽しんで取り組んでいた。	・自主学習については欧米のように子供の興味のあることや得意なことを伸ばすことに取り組んでいけばよいと思う。 ・じぶん学習について何をしたらよいかわからない児童にはテーマなどを提示してほしい。	・パソコン操作の基本スキルを低学年からしっかりと身に付けさせる。そのためにも、パソコンを使う時間を授業の中で確保していく。 ・中学年では子供たちのタイピングスキルを高め、スムーズにキーをタッチすることができるようにする。 ・家庭や学校で学習用パソコンを使うルールを徹底していく。 ・自主学習の回数を増やしていきたい。そのためには、子供たちの取組のノートを見ることが見守る時間をいかに確保するかが課題である。 ・授業と連動した自主学習にも取り組むことができるようにしていく。
	たくましい子供	自己有用感を高める指導の工夫	3	・頑張っている場面を撮影し、学校全体等に紹介することで自尊心を高めた。 ・当番活動や係活動を積極的にを行い、一人一人が学級の役割を担うようにした。 ・授業の中で学び合いによって自己有用感を高められる子供が増えてきている。	・学校全体を見て他人を否定したりする傾向は感じない。 ・学校のルールや先生の言うことはよく守られていると思う。 ・今学習していることが将来どんな役に立つかを教えてほしい。	・当番活動、係活動は自己有用感を育てるために欠かせない活動であるので、継続して力を入れて取り組んでいく。 ・「一生懸命、真剣はすばらしい」「あたりまえのことが、あたりまえにできることが一番美しい」といった学校風土を醸成していく。
		基礎学習の定着	3	・できた瞬間を見逃さずに誉め、よい姿を取り上げて紹介することで、周りにも広めることができた。 ・「聴く」ことに重点に指導を続けたことで、授業に向かう姿勢を育てることができた。	・学力の定着度の低い児童には、種々の活動を通して自己有用感をもたせることでがんばられる。 ・自己有用感を高める指導についてはよく取り組んでいると思う。	・子供一人一人の個の力を見とをしっかりと行い、授業や課題にフィードバックしながら力を高めていきたい。 ・個別学習が必要な児童を把握し、コーディネーターが計画的に支援員を配置する。
		サイレント清掃	3	・徹底できている学年と意識付けが十分でない学年とに分かれる結果となった。 ・子供たちがサイレントが心地よく感じられる時間になるように、粘り強く取り組んでいきたい。 ・「サイレント」を目的とするのではなく、清掃の意義をしっかりと子供たちに伝えていきたい。	・自己有用感を高める指導についてはよく取り組んでいると思う。	・子供同士の相互評価(発表・作文)を取り入れ、目立たないところで掃除を頑張っている子供を評価していく。 ・具体的に、視覚的に、清掃活動について指導することを継続する。 ・きれいになったという実感や清掃活動に一生懸命取り組んでよかったと子供たち自身が感じるような声かけを今後も学校全体で行っていく。
	全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	4	・年3回いじめアンケートを実施しいじめの発見に努めた。報告・連絡・相談を徹底し、いじめが起きた時は迅速に、誠実に、組織的に対応することができた。 ・児童が抱えるストレスやフラストレーションを軽減したり、十分支援したりしていくことがこれからの課題である。	・いじめについて児童の意識は高いと感じる。見たり聞いたりしたことにきちんと対応してやれることが大切。 ・いじめアンケートでは見えてこないことがありそうに思う。 ・先生にも相談しにくいことがあるかもしれない。	毎月の連絡会や毎学期のいじめアンケートなど定期的な情報共有だけでなく、日々の児童の変化に気付き、学年・担任・専科の枠を超えて互いに情報共有し、早期対応・組織的対応を心がけて取り組んでいく。
②不登校支援の取組み		3	・今年度、サポートルームを設置し、学校に来づらい子が足を運べるようになり、効果があった。 ・毎月の生徒指導委員会や職員会議で、学年・学級の様子や気になる児童について情報交換と共通理解を図り、組織的指導ができるようにした。	・地域の方にも正直に相談してほしい。主任児童委員の活用も考えられる。 ・保護者へのサポートも大切だと思う。 ・先生との関係で不登校になった場合どうしたらよいか。	不登校(傾向)児童の情報を全職員で共有し、どのようにサポートしていくかを定期的に支援委員会を開催することで、適切な対応を考えていく。	
③教職員の業務改善		4	・部会や委員会、会議の終了時刻を先に伝え、会議等に取り組むことができた。また、17時以降は会議を自粛することで、18時半には終業(火曜は18時)できる教員が更に増えてきた。 ・業務改善の効果も感じられた1年だったが、行事準備や各種対応でどうしても遅い時間までの勤務になることがあった。	・先生方の生活に余裕がないと子供たちも疲れてしまうかもしれない。もっと改善されると良いと思う。 ・業務改善が児童に及ぼすプラスマイナスを考えると現状はマイナスでは?	・会議や打ち合わせの開始時刻を守ることも含め、さらに時間に対する意識を高め、資料の工夫や提案の仕方改善していく。 ・「令和の時代における学校の業務と活動」の内容を基に業務改善推進委員会を開催し、具体的な方法を検討し実行に移していくことでさらに業務改善を推進し、子供たちに元気に関わる時間を増やしていきたい。	
④保護者・地域への情報提供・発信(すぐーる活用、ホームページ等)		4	・HPのブログ(今日の出来事)を毎日更新することで学校の様子を詳しく届けることができ、保護者からの評価が高かった。 ・「すぐーる」は家庭と学校をつなぐ連絡ツールとして大いに活用できた。	・ホームページ学校の様子が毎日配信されていて子供たちの様子や学校の様子がよくわかりとてもよかった。 ・地域にもすぐーる配信してくれているのでよくわかる。 ・毎日、ホームページを見るのが楽しみである。	・来年度も、様々な学校での取り組みをHP上で積極的に情報発信していくことで、開かれた学校づくりを目指していきたい。 ・来年度も「すぐーる」アプリを活用し、迅速で分かりやすい情報発信に努めていきたい。	

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある